

October 19, 2021

【前日の為替概況】ドル円、3日続伸 いったん短期筋による売り出たが円安・ドル高の流れ継続

18日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3日続伸。終値は114.32円と前営業日NY終値(114.22円)と比べて10銭程度のドル高水準だった。アジア時間と欧州時間に114.45円まで買われ上値を試したものの、前週末に付けた約3年ぶりの高値114.46円を上抜けることはできなかった。2018年10月4日の高値114.55円や17年1月6日の高値114.73円が重要なレジスタンスとして意識されたこともあり、一時114.13円付近まで押し戻された。米10年債利回りが1.57%台まで上昇幅を縮めたことも相場の重し。

ただ、市場では「いったん短期筋による売りが出たが、米金融政策正常化と金利の先高観が意識されており、円安・ドル高の流れは続いている」との指摘があり、下値は限定的だった。

ユーロドルは小幅ながら4日続伸。終値は1.1610ドルと前営業日NY終値(1.1601ドル)と比べて0.0009ドル程度のユーロ高水準。ユーロ豪ドルやユーロポンドなどユーロクロスの上昇をきっかけに買いが先行。米長期金利が上昇幅を縮めたこともユーロ買い・ドル売りを促し、前週末の高値1.1619ドルを上抜けて一時1.1622ドルまで上値を伸ばした。

なお、9月米鉱工業生産指数は予想を下回った一方、10月NAHB住宅市場指数は予想を上回るなど強弱入り混じる結果となったため、相場の反応は限られた。

ユーロ円は8日続伸。終値は132.73円と前営業日NY終値(132.52円)と比べて21銭程度のユーロ高水準。ユーロドルやユーロポンドなどの上昇につれた買いが入り、1時30分過ぎに一時132.79円と6月17日以来約4か月ぶりの高値を更新した。米国株相場が底堅く推移したことも相場を下支えした。

トルコリラは下げ止まらず。対ドルでは一時9.3457リラと史上最安値を更新したほか、対円でも年初来安値となる12.22円まで値を下げた。トルコのエルドアン大統領は前週、トルコ中銀金融政策委員会(MPC)の3委員(2名の副総裁と1名の政策委員)を解任。トルコ中銀の独立性が失われる中、投資家のリラ離れが止まらない状況となっている。

なお21日のトルコ中銀MPCでは、前回と同じ利下げ幅(100ベースポイント)を予想する向きが増えている。

【本日の東京為替見通し】ドル円は堅調か、FRB議長の株取引問題によるドル売りには要警戒

本日の東京時間のドル円は、堅調地合いは継続されるだろうが、大きな値動きは期待できないか。昨日は実需の動きに左右されたが、本日も同様な値動きが予想される。東京時間には本邦勢を中心にドル売り・円買い意欲が若干強いことがドルの頭を抑えるだろう。しかしながら、昨日も米金利上昇にはドル買いで敏感に反応するものの、米金利の低下でのドル売りは反応が薄いことは、トレンドの強さを表しているといえる。これまで上値を抑えられていたチャートポイントや節目をこなしていることで、トレンドとしては強いドル買いトレンドが変わるのも難しく、年初来高値を更新していく局面もあり得るだろう。

ドル買い要因としては、引き続き世界各国のエネルギー不足の問題が深刻で、原油価格が堅調に推移していることだ。昨日のWTI11月限は一時83ドル台まで上昇した。いささか上げ幅も、上昇スピードも速いことで調整の売りが入る局面はあるだろうが、英国、中国、ユーロ圏などを中心としたエネルギー不足解消の目途が立たず、原油高によるインフレ懸念、米金利を中心とした金利高によるドル買い意欲は継続しそうだ。

一方でドル売り要因は、ダウ平均が大幅に下落する直前の昨年10月1日に、パウエルFRB議長が最大500万ドル相当の株式を売却したことが昨日明らかになったことだ。同様に株取引を行ったカプラン米ダラス連銀総裁とローゼングレン米ボストン連銀総裁は総裁職を辞任することになったが、FRB議長も同様に株取引を行っていたことで再任の道が険しくなったといえそうだ。いままでは再任を指示していたバイデン米大統領とイエレン米財務長官が、今後の態度を変える可能性もあり、FRBの信認低下が一時的にドル売りになることには注意をしておきたい。また、食傷気味にはなっているが、中国恒大集団のデフォルト(債務不履行)懸念にも警戒はしておきたい。

本日の東京時間は、10月豪準備銀行(RBA)理事会議事要旨が公表される以外は主だったイベントがない。10月のRBA理事会は無風だったこともあり、議事要旨もサプライズとなる内容を期待するのは難しく、値動きは限定的になるか。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○衆議院選挙公示

<海外>

- 09:30 ◎ 10月豪準備銀行（RBA）理事会議事要旨
- 18:00 ◇ 8月ユーロ圏建設支出
- 18:15 ◎ レーン・フィンランド中銀総裁、講演
- 19:00 ◎ マン英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 20:00 ◎ センテノ・ポルトガル中銀総裁、エルダーソン欧州中央銀行（ECB）専務理事、講演
- 21:00 ◎ パネッタ ECB 専務理事、講演
- 21:05 ◎ ベイリー英中銀（BOE）総裁、講演
- 21:30 ◎ 9月米住宅着工件数（予想：162.0万件、前月比0.3%）
◎ 建設許可件数（予想：168.0万件、前月比▲2.4%）
- 22:00 ◎ ピル英中銀 MPC 委員、講演
- 23:00 ◎ レーン ECB 専務理事兼主任エコノミスト、講演
- 24:00 ◎ デイリー米サンフランシスコ連銀総裁、あいさつ
- 20日 01:15 ◎ バーキン米リッチモンド連銀総裁、講演
- 20日 03:50 ◎ ボスティック米アトランタ連銀総裁、講演
- 20日 04:00 ◎ ウォーラー米連邦準備理事会（FRB）理事、講演
- インド（イスラム教モハメッド生誕日）、休場

20日

<国内>

○08:50 ◎ 9月貿易統計（通関ベース）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

18日 17:27 ビスコ・イタリア中銀総裁

「柔軟な政策は手段の一部であり続けるべき」

「市場の見通しと欧州中央銀行(ECB)のガイダンスは整合的ではない」

「インフレ圧力は来年まで続くかもしれない」

「金融政策は緩和的であり続ける見通し」

「ECBは、コロナ危機後も政策手段の柔軟性を維持すべき」

18日 17:39 フロスト英首席交渉官

「先週の欧州連合(EU)との協議は建設的だった」

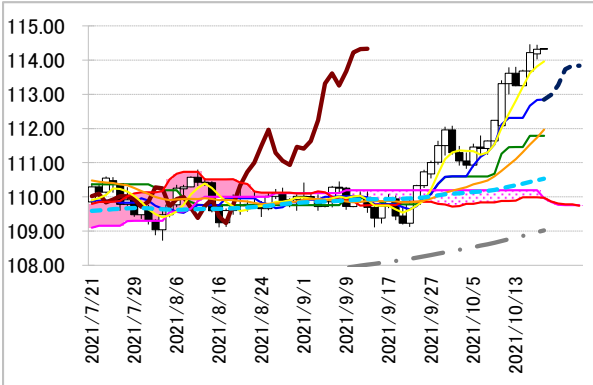
18日 22:59 スパーン独保険相

「11月25日に緊急事態を終了することに賛成」

「室内における検証やワクチン接種、その他の衛生規則は引き続き実施」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

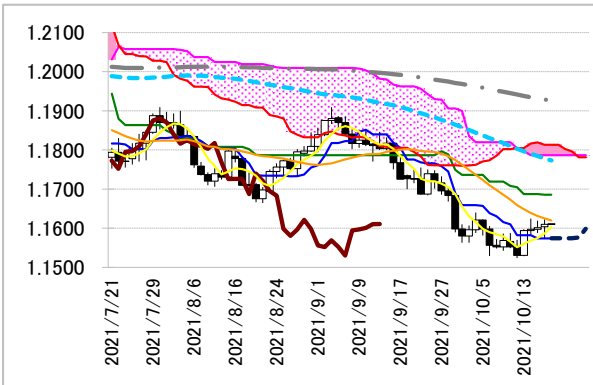


<ドル円=やや伸び悩んだものの上昇波形を維持>

下影小陽線引け。高値圏でやや伸び悩み気味だったものの、下押しは114円付近にとどまった。

114円割れ水準で上昇中の短期5日移動平均線や、13日高値113.80円も割り込んでおらず、強い上昇波形を維持。堅調な流れが続くことを示唆したままの状態にある。

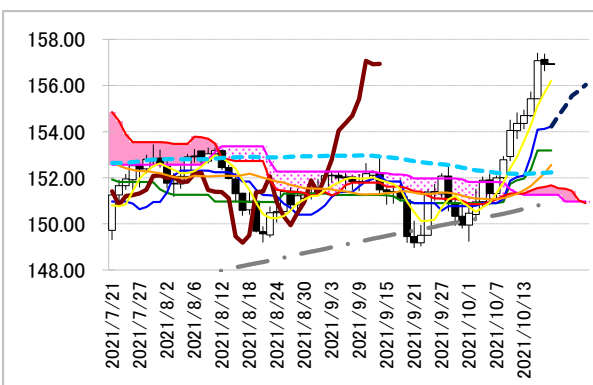
レジスタンス 2	115.51 (2017/3/10 高値)
レジスタンス 1	114.73 (2017/11/6 高値)
前日終値	114.32
サポート 1	113.80 (10/13 高値)



<ユーロドル=底打ち見込まれる転換線付近で下げ渋る>

下影小陽線引け。やや不安定な状態で一時1.1572ドルまで下押しした。しかし、現水準1.1574ドルで底打ちする見込みの一目均衡表・転換線をわずかに下回る水準で下げ渋り、先週末の終値を小幅ながら上回って引ける底堅さを示している。1.1620付近で低下中の21日移動平均線付近での重さも継続しそうだが、現レンジ付近をしばらく維持し、次に放れる方向をうかがう状態が続くことになるか。

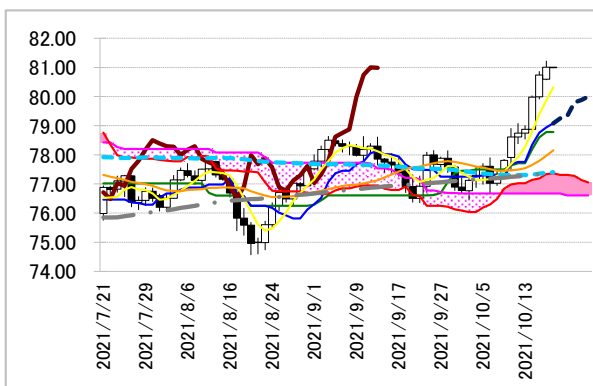
レジスタンス 1	1.1651 (ピボット・レジスタンス 2)
前日終値	1.1610
サポート 1	1.1562 (10/12-14 上昇幅の 61.8%押し)



<ポンド円=5年ぶり高値圏157円台で伸び悩むも底堅い>

下影小陰線引け。先週末15日に一時157.42円と2016年6月以来、5年ぶり以上となる157円台に達した後を受け、高値圏で伸び悩んだ。一目均衡表の各指標はいずれも、転換線が基準線を上回るなど、当分は買い示唆を継続する見込み。短期5日移動平均線からの乖離も大きくなっていったことから調整は入りやすかったが、基本的な流れは強いまま。本日156円台へ上昇した5日線付近までの下押しは想定されるものの、上昇基調が続くとみる。

レジスタンス 1	157.42 (10/15 高値=年初来高値)
前日終値	156.93
サポート 1	156.22 (5日移動平均線)



<NZドル円=達成感も生じつつあるが底堅い>

上影陽線引け。2018年1月以来の高値81.20円台で達成感も生じつつあり下押ししたが、81円付近に戻して引けており底堅い。5日移動平均線付近で下げ渋る流れを想定するが、同線を割り込んで80円割れとなると上昇の勢いを次第に弱めると考えられる。ただ、そうであっても現在79.08円に位置する一目均衡表・転換線が今後上昇して支えとなり、上向きの流れを回復することが期待できる

レジスタンス 1	81.30 (ピボット・レジスタンス 1)
前日終値	81.00
サポート 1	80.32 (5日移動平均線)

